

「聞こえる・聞こえない」を 超えて、共に生きる社会へ

人権文化の  まちづくりを目指して

手話をみんなに
広めたい



つながる 明日への一歩

「手話は言語」その認識が最初の第一歩になります。

おおさと ひろふみ
大里 博文 さん

私たちが住むこの町には、手話で語り、顔の表情や動きを読む人たちがいます。障がいによる耳の聞こえない人々（以下「耳の聞こえない方」と表記します）の声をすることで、一緒に学びの第一歩を踏み出しましょう。

知って気づく 聞こえない方の「不便なこと」

耳の聞こえない方が日常生活を送るうえで、どんなところに不便なことを感じているか、みなさんはどんなことを想像しますか。「隣人とのコミュニケーションがとれない」「クラクションなどの警報音が聞こえない」などが思いつくと思います。

実はそれ以外にも、私たちの気づけなかった不便なことがたくさんあります。どんなことがあるのか、見ていきましょう。

毎日、体操を
頑張っています



すぎ やえこ
杉 八重子 さん

木村拓哉が
大好き

世界を旅して、
山に登りたい

テレビゲームが
好きです

韓国ドラマや、中国
ドラマが大好きです



おごり きよみ
尾籠 貴代美 さん



はらなか こうじ
原中 光二 さん



こむら まさかつ
小村 正勝 さん



おおさと みえこ
大里 美恵子 さん

耳の聞こえない方が感じる日常の思いの一部

聞こえない
障がいはいは見た目では
わかりにくいので、無視
している、マナー違反と
誤解されたりする

手話が言語の
人たちにとって
日本語は外国語なので
筆談は苦手

お店のレジ
でのやり取りが
わからない

補聴器を
つけていると
「聞こえる」と
誤解される

避難所などで
思いが通じない
ことが不安

救急車を
呼べないことが
不安

発音が
違うらしく、
ジロジロ見られる
のが嫌

耳の近くで
大声で話される

事故を起こし
た時、通訳者が到
着するまでの時間
がとても不安

簡単な窓口の
手続きも通じなくて
困ることがある

自分の声も
聞こえないので
おもわず出ることが
ではない大きな声を
怖がられる

手話が
わからなくても
身振りで通じるので、
どんどん話しかけて
ほしい

知ることが最初の一步 共に生きる未来のために

今回、耳の聞こえない方が届けてくれた「思い」
が、私たちが「知る」きっかけとなることを願
い特集で紹介しました。

日本語、外国語、そして手話も言語です。聞
こえる、聞こえないを超えて、共にいきいきと
暮らせる未来を作っていきましょう。

聾であること
を誇りに思う



まつだ まき
松田 真紀さん

メジャーリーグ
(特にアーロン・
ジャッジ選手)が
好きです



なかじま ゆきひろ
中嶋 幸広さん

佐久間大介さん、
菊池風磨さん、
猪俣周杜さんが
大好き



まえかわ しょうこ
前川 章子さん

「桂川町手話言語条例」 が制定されました

令和8年3月の議会において、「桂川町手話言語
条例」が上程、可決されました。